



可能にする安保护制」を背負った存在であり、憲法に書き込まれること(「9条2項の「戦力不保持・交戦権否認」の例外となること)で、軍隊としての実質を備え、機能することに道を開くことになる。

自衛隊の隠された実態  
災害救助の場面などで報道される「自衛隊」に隠れた「自衛隊」の実態がある。

新防衛大綱のもと、陸上自衛隊に水陸機動団(「日本版「海兵隊」)を新たに創設。これは上陸作戦を行う部隊であり、新たに水陸両用車を配備、オスプレイなど米海兵隊と同じ装備を配備し、研修や共同作戦も米海兵隊と一緒にを行う部隊になる。

安保护制(戦争法)により海外での作戦を前提とする部隊に、自衛隊装備も海外での作戦活動を可能にするものになりつつある

際限なく拡大する装備と防衛予算：自民党安保护調査会「NATOを参考に、防衛費はGDP2%(「10

兆円)程度に」(6/17NHK)と語っている。安保9条改憲により海外で本格的な戦争を遂行することの憲法上の「お墨付き」を与えることになり、「自衛隊」が憲法に書き

# 第56回乙訓母親大会

9月10日、第56回乙訓母親大会を長岡京市バンビオ市民ギャラリーにて開催し、参加者が150人を超え用意した資料が足りなくなるという、主催者としては嬉しいけれど参加者の皆さんにはご不自由をおかけすることになりました。しかし

込まれるだけだったらいんじゃない?」...とはならない。最後に、狙われている「改憲」スケジュール。これから私たちは安倍9条改憲にどう立ち向かうかを述べられた。

最後まで退席する人がほとんどない、実に集中度の高い大会となりました。講演は大阪経済大学准教授の伊藤大一先生をお招きし、「私達のくらしはどうなる? トランプとアベ」というタイトルでお話し頂きました。伊藤先生の研究テーマは労働運動の日米比較(ブラック企業・フリーター問題)で、カリフォルニア大学バークリー校の客員研究員として渡米。その時にトランプ政権誕生を目的の当たりした経験をお持ちで、それらを踏まえて映像を交え気さくな話しぶり、日本の政治と経済の仕組み、トランプ政権がどうし

最後まで退席する人がほとんどない、実に集中度の高い大会となりました。講演は大阪経済大学准教授の伊藤大一先生をお招きし、「私達のくらしはどうなる? トランプとアベ」というタイトルでお話し頂きました。伊藤先生の研究テーマは労働運動の日米比較(ブラック企業・フリーター問題)で、カリフォルニア大学バークリー校の客員研究員として渡米。その時にトランプ政権誕生を目的の当たりした経験をお持ちで、それらを踏まえて映像を交え気さくな話しぶり、日本の政治と経済の仕組み、トランプ政権がどうし



講演する伊藤大一さん

最後まで退席する人がほとんどない、実に集中度の高い大会となりました。講演は大阪経済大学准教授の伊藤大一先生をお招きし、「私達のくらしはどうなる? トランプとアベ」というタイトルでお話し頂きました。伊藤先生の研究テーマは労働運動の日米比較(ブラック企業・フリーター問題)で、カリフォルニア大学バークリー校の客員研究員として渡米。その時にトランプ政権誕生を目的の当たりした経験をお持ちで、それらを踏まえて映像を交え気さくな話しぶり、日本の政治と経済の仕組み、トランプ政権がどうし



大会を楽しむ参加者

て生まれたのか講演されました。その後、会場から出された9つの質問にそれぞれ先生からの回答があり、その中で私たちが各々の持ち場で頑張りすぎず、若い人たちに寄り添って仲間を増やしていこうが大事だと気付かされました。それを受けてさらに感想意見が6人から出され、双方向の学習会となりました。

第2部は日本母親大会in岩手に、乙訓から参加した七人のうち二人から感想を伺ったあと、地域の運動交流を行いました。大山崎町・長岡京市の保護者から保育・学童の充実を求める地道な運動の経緯が話され、

改めて「子どもを守る」「住民が主人公の地域づくり」の重要性を確認しました。

当日出された感想からは「2000年以降非正規が増えたこと。凶悪な事件も増えてきたこと。対外競争を望まない社会をつくることは国民の暮らしが豊かな社会をつくっていくことなんだ。企業の内部留保を取り崩し貧困層に使うべき」という先生の主張に大賛成です。「民主社会を守つて若い人を育てよう」のテーマに希望を持ちました。「政治のからくりはなんとなく分かったのですが、たかひは大変だなあと感じます。それでも、自分ができることをコツコツとやり、仲間を増やしつつなっていくことしかないかなと思えます」「正社員で壊れるよりも非正規のままと言う子どもに何をお守りにして働けと言っのか」と言う質問に先生が「無理はしない」と言ってくれたのは、その言葉をお守りに仕事をして

改めて「子どもを守る」「住民が主人公の地域づくり」の重要性を確認しました。当日出された感想からは「2000年以降非正規が増えたこと。凶悪な事件も増えてきたこと。対外競争を望まない社会をつくることは国民の暮らしが豊かな社会をつくっていくことなんだ。企業の内部留保を取り崩し貧困層に使うべき」という先生の主張に大賛成です。「民主社会を守つて若い人を育てよう」のテーマに希望を持ちました。「政治のからくりはなんとなく分かったのですが、たかひは大変だなあと感じます。それでも、自分ができることをコツコツとやり、仲間を増やしつつなっていくことしかないかなと思えます」「正社員で壊れるよりも非正規のままと言う子どもに何をお守りにして働けと言っのか」と言う質問に先生が「無理はしない」と言ってくれたのは、その言葉をお守りに仕事をして

いきたいです。教員の増員をめざしていきたい」「息子より若い先生のお話、親しみをもって聞かせていただきました。母親大会やっぱり必要ですね」と、共に頑張ろうと心をつにしながら話が伝わってきました。

来年のことになります。2018年1月28日(日)には、長岡京市中央公民館

講座室で第44回乙訓はたらく女性の集会を開きます。昨年に続いて講師には藤野ゆきさんをお招きし、「はたらくこと - アベさんがめざす人生100歳ビジョンって? - (仮題)」という中身でお話し頂く予定です。どうぞ今からご予約下さい。

(石村和子・多田久美子)



市民からはじまる政治をいま  
今の政治に私も言いたい!



10月9日に行われた市民と乙訓地方議員のリレースピーチ

# 反核・反戦・平和 3向平和のつどい

新婦人向日支部 もえぎ班

8月27日「3向平和のつどい」が「医療生協3向支部」「新婦人もえぎ班」「3向9条の会」の3団体共催で開催された。当日の参加者は37名、女性24名のうち新婦人もえぎ班から16名、くれない班サルビア班からも参加していた。



今年は7月7日に国連で「核兵器禁止条約」が122ヶ国の賛成で採択され、ヒバクシャを先頭とする長年の核廃絶の願い・運動が実った直後だったので、「反核・反戦・平和」の願

いを地域に届けようと取り組まれた。

くれない班の優しい音色のオカリナの調べで始まり、医療生協、米重恭子さんの「心と体を元気に・脳いきいき教室」では、脳の老化の原因として脳の血管の詰まりが大きい事を始め、脳の老化を防ぐため「昨日の事を思い出す学習」等をして頂いた。門野三郎さんのお父さんのお話では、ニューギニアで戦死とのことだったが、唯一生き残られた戦友からのお話では餓死さ

れた上、いまだにご遺骨も還っていないとの衝撃的なお話だった。2歳で被爆された池本高子さんは「入市被爆」され、お母さんは「酷い差別との闘いを余儀なくされた」と話された。6月の「核兵器禁止条約国連交渉会議」の傍聴と「ニューヨーク行動に参加された、被爆2世の米重節男さんからは、映像も使ってその様子を分かり易く話して頂き、その場に参加した気持ちになつた。

当日の会場は、もえぎ班の新聞ちぎり絵小組の展示で和やかな気分になったと好評。つどい後では、3向地域の方の発表が欲しかった点と、各人のお話をもっと詳しく聞きたかったとのご意見が聞かれ、次年度への課題にしたいとの実行委員会でのまとめだった。



# 戦時下のある話 (5)

中平一二三

顔も知らない伯父が、母を通して伝えてくれた「南洋での日本軍の蛮行」は、私の反戦平和の原点となっています。

1990年私はインドネシアのスマトラ島にいました。プキティンギという町でのことです。道を尋ねた現地の人に「日本人を憎んでいる」と言われ、無視されました。その日、いかにも（日本人向けの）観光コースにはない「Lobang Jagas（ロバン ジャパン）」という旧日本軍の要塞跡を見学しました。戦争当時の日本軍の蛮行を絵（レリー



「さらに凄惨な絵もあったがカメラを向けられず」とメモが

フ）にした展示が続き、見ただけで残虐行為があったことを知りました。そこで日本人を憎むと言われたときの相手の顔が蘇り、納得したのでした。顔色を失った私をイギリスから来たという女性が慰めて言うには「これはあなたの罪ではない、当時の日本の政府や日本軍の軍隊がやったこと」「でも、」「こんなことで落ち込むなら、私たちがイギリス人は、（世界のあちこちで）落ち込まなければならぬ」（ナルホド）同日。宿泊したホテルに20人くらいの日本人グループが宴会をしていましたが「懐かしむ会」という名称からして旧日本軍の人たちだったのでしょう。なんともやりきれなくてその人たちとホテル内で顔を合わせないようにはしていた、とアルバムにメモがあります。

それから約20年後の2009年、私はサイパンにいました。ダイビングを楽しむはずがここでもサイパン戦の跡地を見学するツアーに参加してしまいました。どうしても「歴史を知れ」「現地で学べ」と声がかかるのです。

先日早朝、ラジオから「あの頃のパラオを探して」という本の著者がインタビューに答えているのを耳にしました。それは寺尾紗穂さんというまだ30歳代のシンガーソングライター兼執筆家の方でした。すぐに長岡京市立図書館にこの本をリクエスト、さらに「南洋と私」も借りて読みました。彼女は書いています。「この本を書こうと思った原点は『南洋は親日的』という言葉に覚えた違和感にある」と。若い世代の鋭い感性は、人類の希望です。私もまた知ってしまった者の務めとしてさらに知り、それを伝える努力をしなければと思うのです。（つづく）

## 竹炭

開票日の翌日（23日）、新婦人川柳サークルの例會に参加した。共産党が十一も議席を失ったが、野党連合の推した立憲民主党が前進したので、みんな少しほっと様子。憲法改悪反対・消費税増税反対の力が示せたので民主主義は生きることができた。何故アベ内閣が臨時国会の開催に3か月も応じず、「モリ・カケ疑惑隠し」「身勝手」冒頭解散したか？ など淑女達の激論が川柳の選句の間も喧々諤々、かしましく続きました。アベさんは民進党を解体して「維新」に変わる「希望の党」の補完勢力を作って議席を増やし、税金疑惑、お身内優遇政策の追及から逃れられると踏んだか？ 選挙中ミサイルが飛ばなかった代わりに、中国共産党大会の汚職者何万人逮捕等、無関係のニュースを、どの局も意図的に流したのは、比例票を抑えるためだったかも。など。いつにも増して賑やかな句會でした。当日寄稿された七人一九句の中から八句

ミサイルを煽って軍費新記録  
土壇場でするりと変わった前原さん  
また前へつなぐかしくしなやかに  
制裁は窮鼠をさらに追いつめる  
改憲の道幅拡げる希望の党  
核廃絶なゆえ拒む被爆国（政府）  
九条で平和なわが国守ってね

（石）